

「建築技術」短期連載 第①回
機械式定着工法による接合部配筋詳細設計
特殊形柱梁接合部

高さ 60m 以下の中高層建物では、複雑な接合部配筋詳細の設計および施工が多くみられ、鉄筋の太径化に伴い、機械式定着工法の採用が増えている。

これらより、当機構では、SABTEC 指針(2014 年)とデザインマニュアル(2014 年)を発刊し、中高層建物でよくみられる段差梁付き柱梁接合部などの特殊形柱梁接合部の設計規定、ならびに種々の接合部配筋詳細図を提案した。

しかし、機械式定着工法を実務設計により普及させるためには、接合部配筋詳細に関する具体的な定着検定の解説書が不足している。

以上より、本連載原稿の第 1 回は特殊形柱梁接合部、第 2 回は最下階柱・基礎梁接合部、第 3 回は柱主筋外定着方式柱梁接合部、第 4 回は機械式主筋定着に関する技術的課題について執筆する。本連載原稿では、特に接合部内の主筋定着の納まり検討に必要な定着検定に重点を置きたい。

主筋定着が納まらない場合、現場施工段階での変更で対処できないことが多いので、設計段階での主筋定着の納まり検討および定着検定が重要である。

第 1 回の本稿では、高さ 60m 以下の中高層建物でしばしば遭遇する①柱絞りト形接合部、②鉛直段差梁付き柱梁接合部、③水平段差梁付き十字形接合部を取り上げる。

(注記)

本稿は、「建築技術」2015 年 3 月号に掲載された短期連載 第 1 回原稿であり、(株)建築技術の了解を頂き、当機構 HP の WEB 講座に掲載したものです。